

2024年度京都支部総会報告

9月7日（土）京都府の宇治市にある徳洲会六地蔵総合病院の会議室で本年度の京都支部総会を開催しました。昨年に続いての開催になりました。

来賓として、本部から川上茂副会長、兵庫県の小林重文支部長、奈良県の村木正義支部長、滋賀県の藤井鈴子支部長が出席され、会員7名、講師の長山聡先生そして病院の関係の方等を含めて15名の参加者になりました。

総会概要

川上副会長の司会で始まり物故会員（2023年は4名）に対する黙とうを行い、西川昌樹支部長あいさつ、続いて来賓の川上副会長、小林支部長、村木支部長、藤井支部長から祝辞をいただき、新入会員の寺崎益朗さんの紹介とあいさつがありました。

議事については、2023年度総会開催以外行事がなく決算も会計担当者が体調不良で活動できない状態のため決算報告書がまとまらず、西川支部長が改めて纏めますと発言があり了承されました。

また、2024年度の計画についても総会以外予定がないという報告でした。川上副会長から関西圏支部活性化のため、京都で本部と関西ブロック共催の講演会を企画したらと提案があり、ぜひ実現したいという声が多く、川上副会長から支部活性化委員会で実現に向けて検討を進め、理事会に諮る旨の発言がありました。

総会終了後、「手術支援ロボットダヴィンチによる治療の実際について」と題しての宇治徳洲会病院 長山聡消化器外科部長の特別講演をいただきました。

総会後に行われる講演の演題は、心臓ペースメーカーに関するものが多い傾向ですが、死亡原因の2番目に多い大腸がんのお話は大変新鮮で、投影される画面に実際の手術現場の動画が写しだされ圧倒されっぱなしの1時間でした。

この装置はワンセット4億円位と大変高価のものですが、AI技術と連携して人の手ではできない手術を可能にしているそうで、将来は自動車の自動運転のように人の手を介さない手術が可能になるだろうという事でしたが、ロボットに対する手術の個所あるいは範囲を指示することや、機械であるロボットの暴走を管理するのは人間であるため医者が必要であるという事でした。

長山先生には、中身の濃い講演で総会を盛り上げていただきました。

支部長あいさつ要旨

酷暑と台風の災害を乗り越えて、支部総会にご参加くださって感謝します。

京都支部の会員諸氏の高齢化といろいろな合併症など体調の不良を訴える方々

が多く、退会者と鬼籍に入った方が相次ぎ、支部会員数は極端に減少して現在 53 名になりました。

支部の役員の方々も同様な状況で、支部役員会を開催することもままならぬ状況が続いております。

昨年から、支部の広報活動や会合の準備など、全面的に本部事務局に頼ることになりました。本部役員の皆様には、全国の各支部との煩雑ともいえる膨大な仕事量の中で、特に京都支部にご苦勞を掛けて誠に申し訳ない思いながら感謝しております。

支部活動としては、役員会の開催が出来ないことを理由に、この 1 年何の活動も実施できませんでした。

近畿各支部の支部総会（奈良・滋賀・兵庫）には支部長として出席し、それぞれの活発な活動を確認し交流を深めてまいりました。

また、全国集会には昨年と同様本年も 6 月の東京での全国支部長会に出席し、Q&A にも回答者の 1 人として参加してきました。

昨年 11 月には、日本心臓ペースメーカー友の会特別会員・顧問会に出席し、全国の方々からいろいろと激励の言葉をいただきました。

京都支部の存続と発展のためには、役員人事の確立という大切な仕事はまだ未完成です。今しばらくのご支援を全面的に東京本部にお願いすることになります事をお許してください。

本日は、本部からの出席もあり京都支部総会が開催できることは、参加者が多くはななくとも支部存続のために重要な総会であろうと考えます。

本日まで参加の皆様誠にありがとうございます。

本日参加がかなわなかった会員の皆様にも、近く再会がかないますようにお祈りして支部長のあいさつとします。



(文責 川上)